



ほろろ

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
(カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
【今月の一冊】人生を勝利に導く金言
野村 克也 著 致知出版
ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~prime21/>

発行日 2013年2月1日 Vol. 124
発行元 有限会社プライム・コーポレーション
代表取締役 渡 邊 敏 徳
〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

水溜りのカエル

ある小さな水溜りに一匹のカエルが住んでいました。ある日のこと、この水溜りに、別のカエルがやってきました。そのカエルは数年前にこの水溜りを出て行ったカエルでした。その立派で綺麗な姿を見て、小さな水溜りに住むカエルは自分の身体がひどく汚れていることに気づき、一生懸命きれいに洗いました。ところが、しばらくすると身体が黒く汚れていました。きれいになったのもつかの間、いつの間にかまた身体は汚れていました。そこで、自分が住んでいる水溜り自体が汚く濁っていることにより気づきました。

カエルはこのことをみんなに伝え、「この水溜りをきれいにしよう」と訴えましたが、誰も賛同してくれませんでした。それどころか、「今のままで十分居心地がいいから、余計なことはしないでくれ」と逆に文句を言われてしまいました。けれど、諦めずに「水の汚さに気づいて欲しい」と訴え続けましたが、受け入れてもらえず仲間はずれにされてしまいました。

そこで考えたカエルは、勇気を振り絞ってこの水溜りを出ることにしました。どんな天敵がいるかもわかりません。そして、今住んでいる水溜りよりもいい場所が見つかるという確約もありません。しばらく進んでいくと、水が潤沢にあり、きれいに透き通っている大きな水溜りを見つけました。これまでの黒く濁った水溜りとは比べ物にならない美しさです。元住んでいた場所のみんなに、「すばらしい水溜りがあるから、みんなで行こう」と必死に誘いましたが、誰ひとり信じてくれませんでした。大きな水溜りに戻ったカエルは、誰にも信じてもらえなかった自分の無力さを痛感しました。

その時、年老いた長老のカエルから「どうしたんだい」と声をかけられました。今まであった事の顛末をすべて話しました。「力のない正義は無力なんだよ。まずは、お前自身が力をつけることだよ。自分に力がないと、他人に力を与えることはできない。そして、自分自身が幸せになることだよ。自分が幸せじゃないと、他人を幸せにすることなんてできないんだよ。他人を変えようとする前に、まずは、お前自身が変わることが大切なんだよ」と言われました。

人を説得したいなら、まずは自分自身がその“お手本”になり、自分に力がなければ、人に力を与えることはできないということにあらためて気づかされました。



鑑〜かがみ

これは実際にあった話です。

ある少年が小さい頃、お父さんにつれられタバコを買いに行きました。その時、五千円札一枚を出したところ、おつりとして八千円と小銭が返ってきたそうです。

「お父さん、おつりが多いんじゃないかなあ。おばちゃん、おつりを間違えていますよ」と言うと、お父さんは彼を殴りつけ、「余計なことを言うな。黙っていたら分からないんだから」と言い放ったそうです。この行為は、立派な犯罪であり、刑法上のつり銭詐欺で罪に問われます。

この経験が少年の人格の根っことなって犯罪に問われることとなっていきます。少年は万引きを繰り返し、最後にはひったくりを行い被害者が怪我を負ったため「強盗傷害罪」に問われました。

お父さんは、「何不自由なく小遣いを与えていたはずだ」と怒りをぶちまけていましたが、もともとは「バレなければいいんだ」と、自分が五千円をごまかしたことが少年のきっかけでした。ちなみにこのお父さんは一流企業にお勤めのエリートサラリーマンでした。

「間違えて多くおつりをもらってしまったので返しにいかないといけないなあ」と少年に伝え、一緒に返しに行っていたら、この少年の人格の根っこは変わっていたかもしれません。親は子の「鑑〜かがみ」になる生き方がとても大切になりますね。



【座右の銘にしたい名言】



人間としての自覚のあるものにとって、情熱なしになし
うるすべては、無価値である。 (マックス・ヴェーバー/社会・経済学者)